

COVID-19 流行下での市中肺炎の治療

本康医院 本康宗信 / 静岡県立静岡がんセンター 感染症内科 倉井華子

昨年の同時期では、成人の市中肺炎の治療については、主に細菌性肺炎、非定型肺炎を考慮し治療をされていたと思います。迅速検査や喀痰グラム染色を行い薬剤選択ができていました。今春からは COVID-19 によるウイルス性肺炎の存在があるため、外来での肺炎治療の考え方が異なってきています。診療所で肺炎の診断をしても、SARS-Cov-2 の PCR 検査ができるわけではなく、診療所の防護策では、喀痰や咽頭粘膜からの検査は施行できません。重症度により、病院へのご紹介ということになりますが、この時期、受け入れが慎重であることがあります。本来、検体をとらずに抗菌薬を投与することは、多くありませんが、現状では問診から empiric therapy を考えるようになるのも許容されると思います。

静岡県内の COVID-19 症例で、感染経路が追えることが多く、発症場所も報告されているので、まず感染者との接触の可能性を考えます。すでに保健所が濃厚接触者調査をされていますが、近隣に居住されているかどうかは確認します。厚生労働省が帰国者・接触者相談センターに連絡する基準を示していますので、その確認と、県外の移動歴も確認する必要があります。緊急事態宣言が解除された以降、大都市との連絡が容易な当地では、日帰りで流行地を訪れている可能性があります。またその場合、接触者の健康状態の把握も大切です。LINE や Facebook などを用いて、確認することが容易な時代になっていますので確認をしていただくようお願いをします。これのみで COVID-19 を否定することはできませんが、肺炎では、発熱の経過を見る間でも、外来で治療するには抗菌剤を選択しなければなりません。こうした状況では、広域抗菌薬を選択するのもやむを得ないところかもしれません。状況から少しでも微生物を絞ることができれば、そうしたほうが後で治療がしやすくなると思います。

標準予防策で施行できる検査は、尿中肺炎球菌抗原、尿中レジオネラ菌抗原(2019年2月から血清型1~15の検出可能)、血液培養があります。これらを利用するのも一つです。患者背景から、ある程度微生物を絞ることができます。

図1 市中肺炎における患者背景と起因微生物の想定

背景	考慮される微生物
成人誰でも	肺炎球菌、インフルエンザ桿菌、モラキセラ・カタラリス
アルコール依存	肺炎球菌、クレブシエラ、口腔内常在菌、アシネトバクター
COPD・喫煙者	インフルエンザ桿菌、肺炎球菌、緑膿菌、モラキセラ
誤嚥	腸内細菌科、口腔内嫌気性菌
気管支拡張症	緑膿菌
周囲流行	インフルエンザ、マイコプラズマ(特に学校、家族)
インフルエンザ後	肺炎球菌、黄色ブドウ球菌
土壌曝露、温泉	レジオネラ
鳥への曝露(2週)	クラミジア・シッタシ

外来では一般的に多い肺炎球菌は、インフルエンザ桿菌やモラキセラと異なり、急速に増悪することがあるので、否定できない場合には、必ずカバーをします。特別な背景がなければ、AMPCあるいは AMPC/CVA+AMPC という選択になると思います。インフルエンザ桿菌やモラキセラ・カタラリスは AZM に感受性がありますが、肺炎球菌には感受性が低いので、AZM 単剤での治療は避けるようにします。レスピレトリーキノロンは、多くの細菌に感受性があり、こういった状況では第一選択に考慮されることがあると思います。注意点として、肺結核を疑う所見、例えば 2~3 週間以上続く咳嗽、体重減少、寝汗の存在、また 1 週間以内に改善しない市中肺炎、HIV 感染、糖尿病、悪性腫瘍の合併、免疫抑制中などの結核ハイリスク群では、肺結核の検索をしつつ、他剤を考慮します。マイコプラズマ肺炎は、周囲で流行していることが多いですが、間隔が週単位で長いので、よくお話を伺うことが必要です。疑われる場合には AZM や DOXY を選択します。

軽症肺炎では、今まで通り診療所外来で治療をしたいところですが、低酸素血症やバイタルサインの変化がある場合には、どうしても入院加療をお願いすることになります。COVID-19 の除外ができないのは、診療所でも病院でも同じことですが、院内感染を防ぐため、病院への紹介時には、経過をできるだけ迅速に伝えたいところです。あらかじめ、チェックリストを作っておくのも一つかもしれません。

図 2 COVID-19 外来チェックリストの 1 例

問診:	
海外渡航歴 (なし・ / ~ / :))
県外移動歴 (なし・ / ~ / :))
報告されているクラスターとの接触(なし・))
COVID-19の感染者との接触(なし・))
密度の濃い集団での活動・会食 (なし・))
発熱や咳嗽のある方との接触 (なし・))
家族の方で同様の症状(なし・))
基礎疾患 (なし・))
症状:	
<input type="checkbox"/> 発熱 (/ ~))
<input type="checkbox"/> 咳嗽)
<input type="checkbox"/> 呼吸苦)
<input type="checkbox"/> 強い倦怠感)
<input type="checkbox"/> 鼻汁)
<input type="checkbox"/> 味覚・嗅覚障害)
<input type="checkbox"/> 咽頭痛)
<input type="checkbox"/> 下痢・嘔吐)

県内では新規発症者の報告は、少なくなっていますが、発熱や呼吸器症状を有する患者がお見えになると、診る側も慎重になるところです。患者側も不安を抱えてやってきますので、できるだけ冷静に対応をしたいところです。

参考

1) <https://stopcovid19.code4numazu.org/> (2020.6.15 閲覧)
 2) 黒田浩一:市中肺炎診療レクチャー 中外医学社 2019